

平成 29 年度情報学群海外研修報告書（抜粋版）

1. 研修目的

アメリカ合衆国カリフォルニア州のシリコンバレーと呼ばれる地域では日々、新規性の高いベンチャー企業が生まれては有名企業へと成長していく。そのような背景を受け、シリコンバレーには IT に特化した優秀な人材が世界中から集まる。そのためサンフランシスコ全体が世界にも類を見ない産業の集積地となった。これらを踏まえ、私はシリコンバレーの企業で働く人々とのコミュニケーションから企業文化の違いを探り、同じ専攻分野に生きる幅広い世代とハッカソンイベントを通じて繋がることを本研修の目的とした。

2. 研修概要

研修期間	平成 29 年 9 月 11 日（月）～平成 29 年 9 月 25 日（月） 14 日間
研修先	アメリカ合衆国 カリフォルニア州 ロサンゼルス および サンフランシスコ

3. 研修内容

Open Source Summit North America 2017

2017 年に LinuxCon、ContainerCon、CloudOpen の 3 イベントが統合されて新しく生まれ変わったものが OpenSourceSummit である。OpenSourceSummit では主に Linux を中心としたオープンソース技術について、様々な情報やトピックを参加者全員でシェアすることができる。著名なメンテナーや開発者によるプレゼンとデモもその場で聞くこともできる。50 近いスポンサーショーケースが並ぶ中、毎日サービスの運用に携わっているようなトップレベルの技術者の方々から日々の業務について 1 対 1 で話せる機会は非常に貴重であった。中には日本のプロジェクトチームが出展しているブースもあり、個人が作ったソフトウェアを海外へ向けて上手くプロモートする方法など、実践的なテクニックを頂いた。

Computer History Museum

カリフォルニア州マウンテンビューにあるこの博物館は Apple や Intel などアメリカを代表する企業の本社に挟まれた場所に位置する。展示品は計算機に限定されており、その数は 1,000 を超す。博物館内の順路が歴史の流れと一致しており、計算尺などから始まった展示がいつの間にか今我々が使っているようなモバイル製品にまで進化するような演出になっている。Apple 創業者の 1 人であるウォズのサインが入った初代アップルコンピュータなど、ここでしか見られないものも少なくない。

ハッカソン

9/16~17という日程でアメリカの大手インターネットメディアである TechCrunch が主催するハッカソンに参加した。なおハッカソンとはハック(hack)とマラソン(marathon)から成る造語であり、決められた期間に集中的な開発をチームで行い、そのアイデア性や完成度を競う大会である。本大会では開発時間が24時間に定められており、約1分のデモで成果物の紹介を行う。私は現地の大学に通う日本人留学生を中心として合計4人のチームを形成し、大会に挑んだ。ハッカソン自体は1日目の12時半にスタートされ、スポンサーから特別に提供されるAPIやIoTデバイスについては各チームが自由に使うことができる。同日には会場内でスポンサー主催のワークショップが点々と開催され、主な使い方は学ぶことが出来る上に、大会中にもし分からないことがあれば担当者に直接聞いてアドバイスをもらうことが出来る。



17日の9時半には制作物の提出が締め切られ、それから約4時間かけて全チームがデモを行った。私も実際にプレゼンターとして登壇した。成功させられるか不安であったが、アプリの完成という目標を達成出来た上に、会場内のハッカーやスポンサーの方々とコミュニケーションをとることができ、疲弊しきったが大会を楽しむことができた。

Disrupt SF 2017

DisruptとはTechCrunchが毎年開催するスタートアップとその技術に関する展示及び情報共有が目的とされた展示会であり、今年サンフランシスコのPier48で行われた。ハッカソンイベントで賞こそ獲得できなかったものの、審査員から3以上のスコアを頂いた私たちのチームは通常\$2,995で販売されているDisruptの入場チケットを無料で2枚もらうことが出来た。カンファレンスイベントは3日間開催され、全日参加した。イベント内では各企業が展示するパネルなどを見て、興味があればデモを体験したりすることが可能である。中にはJETROが主導した日本パビリオンも用意され、その場所では日本人から日本語で話を伺うことができた。

企業見学

研修の後半までにGoogleやUnityなどの会社を訪れたが、いずれも実際に人が働いている現場まで入ることは叶わずにいた。しかし22日、Microsoftで働く社員の方のご厚意によってオフィス内を見学させて頂くことができた。カフェテリアやフリースペース以外にも実際に仕事をしている個室にまで案内して頂き、会社内の空気とプロジェクトグループの雰囲気など肌で感じる事ができた。

4. おわりに

2週間の研修期間内に予想を遥かに上回る経験を得ることができ、多くの人と出会えた。研修中は毎日トラブルが絶えなかったが、問題解決能力が高まる契機となった。語学力も含め、就職に向けた自分の課題が見つかった。最終日には風邪を引いてしまったが、無事に帰国し研修を終えることができた。

5. 謝辞

今回このような貴重な機会を与えてくださった情報学群、並びに研修をサポートしてくださった大学関係者の方々に心から感謝いたします。